

ちふと馬

創立二十五周年記念号

平成二十三年十月

千代田岳精会

(題字飯田精鷹初代会長)

「吟友呼び」の輪が広がつた

会長 鈴木 龍成



久し振りに昭和六十年の日記を繙いてみました。四月五日（金）の欄に「午後五時 詩吟」とありました。この年、長い地方勤務から本社勤めとなつた私と詩吟（飯田精鷹先生・千代田教場）との記念すべき出会いの日でした。会社の先輩N氏の誇いで「ちよつと覗いてみましょ」と、明治生命七階講堂へ行つたところ、数人の方々が真剣な面持ちで詩吟の練習をしておられました。その中には、今は故人となられたT氏（“画伯”）の異名）とIさん（素晴らしいソプラノ）をはじめ、F氏、Y氏などがおられたのを覚えています。

飯田先生の、ハリのある美声に圧倒されながら、渡された教本に私流のメモを懸命に記入し、勉強したものです。一人ひとりの独吟指導は、できればバスしてほしいと願いつつ時を過ごしました。なにしろ五時からの教室ですから、時折睡魔に襲われたのには閉口でした。

現役時代のこととて、出張等、仕事との兼合いを調整しながらの教室参加でしたが、日記をみると殆ど休まず出席していただいたようだ。「そうだつたのか」と我ながら感心させられます。現在、千代田の土台をどつしりと支えていただいている諸先輩の皆様と、研修の席を同じくさせて頂くようになつたのは、吟のお陰と 思います。

当時、皆様の積極的な“吟友呼び”働きぶりは目を見張るものがあり、教場創設時から千代田教場の活動は、活発になつておりました。飯田先生から、吟友仲間の楽しいエピソードをよく聞かされたものです。先生は、会社の昼休みに音楽同好（吟友候補）の士を募ろうと、ステレオコンポを七階講堂に運んで、先生と二人で、日本歌謡を歌つて皆さん（特に女性）の関心を呼ぼうとしたこともありました。『サクラ』的な方を含めて、何人の方と歌を歌つたりしたのは楽しい一時でした。その当時のCDカセットを大切に保管しています。

平成四年四月の東陽町教場開設を皮切りに始まつた支部昇格を目途とする会員拡大取組みは、それこそ「みんなの吟友呼び」活動が功を奏して、目標を二か年で達成し、平成六年八月の「支部昇格記念大会」を横山岳精宗家（当時）をお迎えし開催したことは、以後の当会の発展の嚆矢といえるかと思ひます。

「千代田教場」の誕生時は、申すまでもなく「職域会員」（一つの職場関係の結びつき）を主体としてあります、「職域」型では限界か？などの周囲から寄せられる揶揄をはねのけて、その力が大きいに会員拡大に發揮されましたことは申すまでもありませんが、ある時期から新たな「核」（職域）（「清水」「ハザマ」「練水」等）に展開が行なわれたことが、今日の躍進につながつてゐると思います。人縁の新たな広がりをしみじみ感じます。

千代田二十五年の歩みは、様々な人々の縦横の絆によつて編まれてきた歴史であることを痛感いたします。そしてその絆が大きな縁（円）となり、大きく展開してきたものと思ひます。

平成十九年以降推進してきた新しい拠点づくりは「地域」への広がりを実現しています。かつての先輩方が「詩吟をやろうよ」と投げた言葉の一石が、今やあちこちの拠点の“池”で波の輪を広げて行こうとしています。

先輩の皆様の歩みを確りとなぞりつつ、お互いの手を携えて進んで行きたいと願っています。

功労先輩のみなさんに
黎明期の思い出を戴きました。

千代田岳精会（秘話）

岳精流副幹事長
常任顧問 磯田 精信

（六十二年二月）
記憶は定かでないが、昭和五十九
年暮れの頃、飯田さんから墨痕鮮や
かな色紙を戴いた。

興を遣るの吟 伊達政宗

馬上青年過 時平白髮多
残軀天所許 不樂復如何

往時の私の心境に深く響く内容
詩文であつた。その飯田さん（後の
千代田岳精会初代会長）が詩吟同好
会を開くとの事、早速入会を申し込
んで第一号門下生となつた。この搖
藍期は二年有余続いた。そして六十
二年二月岳精会千代田教場が誕生し
た。

秘話 その①
私の手許に第一回温習会のプロゲ
ラムがある。昭和六十一年六月二十
日開催。出席者二十余名（書道関
係者を含む）。その中で現在まで吟を
続いている人は飯田精鷹、岩崎龍慶、
岡崎龍慶、

大熊龍清、吉川龍鐘、鈴木龍成、中
村伯風そして私の七名のみである。中
黎明期の思い出を戴きました。

秘話 その②

樂しかった吟狂人生。

同好会発足当時、生徒は故田中氏
と私の二人の時代があつた。往時の
教室は旧明治生命館大講堂を使用、
ある日私は、所用（麻雀）で無断欠
席、田中氏も別用件で欠席。誰一人
居ない広い講堂で飯田さんが独りで
吟じて帰られたことがあつた。現在
では考えられない思い出である（飯
田さんゴメンナサイ）。

秘話 その③

一对一の詩吟教室は時間は十分、
中身は濃い筈であるが、吟の節調習
得は中々進まない。王維作「元二の
安西に使いするを送る」この最初の
節調『渭城の朝雨』これが何回や
つても覚えられない。思い余つて翌
日昼休み皇居のお堀端の遊歩道で先
生に無理矢理お願いして繰り返し教
えて戴いた。当時は合吟練習には程
遠い時代であつた。

秘話 その④

初めての宗家主催全国研修・飯田
先生の指定席が無い。近隣の会員
は勿論、北は北海道から南は沖縄ま
で全国研修に参加して来る。見回す
と両側には○○会長、△△支部長の
先生があり、夫々悠然と座つていい
一般的席にやつる。

と座つた。会長・支部長とは？何も
知らない私が疑問に思い尋ねると、
会員は百名、支部は五〇名以上の会員
数との事。矢張り会員は多くなけれ
ばと惨めな感慨に耽つた事があつた。
それなら何としても会員を増やすさ
ねばと心密かに誓つた。

秘話 その⑤

千代田つて何処？

初めて京浜合同教場大会に参加し
た時（当時三十余の教場の集まりで
会員数は五百名位であつたか）受付
で千代田教場ですと手続きを済ませ
ようとした。その際受付の人が怪
訝な顔をして隣の人囁いている。
「千代田？千代田何処にあるの？」
唖然とした私は、「私達の教場はそん
な存在？」口惜しかつた。

今では、流統の中で名実共に一番
の千代田岳精会を知らない会員さんは
少ないだろう。昔の思いにたえ
ない。◎千代田を吟道大学にしよう！
会員を増やそう、そして千代田を
何処にも無い吟道大学を目指そう。
当時の飯田教場長と話し合いを重ね
る。先ず私が東陽町に教場を立上
げることを申し上げ、先生から快諾
を得た。

伝月◇（東陽町教場誕生）（平成四年三
月）副教場長林龍吾先生（ともに中
当時の会員僅か二名（耳塚昇風、

大田晴風氏)であつた。

その後、平成六年千代田教場を分

四半世紀の光陰

常任顧問 岩崎 龍慶

命ビルが無料で使用出来、今では月

割し「丸の内第一教場」「丸の内第二教場」と三教場となる。

二教場「平成六年千代田支部に昇格

会員数六十余名」宗家岳精先生か

ら「早期に会昇格へ」と励ましの言葉を戴く。

◇平成九年目出度く会昇格 東陽町・丸の内第一・第二・清水神田・ハザマ教場(会員数百三十名)

◇平成十八年十二月創立二十周年記念大会開催 会場 明治安田生命ホール 祝賀会 京王プラザホテル 会員数百七八十八名

◇二十周年終了を期して千代田岳精会は会員夫々の吟楽研鑽の場、目指す吟道大学の基礎作りの為、飯田会長と現常任顧問方と相談り新体制、大幅に新旧役員交替を図った。新会長に鈴木龍成氏を推薦し新体制の確立、今日に至る。

◇そして今回二十六拠点(教場・分室)二六十余名と大幅な会員増強を成し遂げ、創立二十五周年の運びとなる。誠に感無量である。後に続く者を信ず。千代田岳精会は皆のもの!俺達のもの、私達のもの!

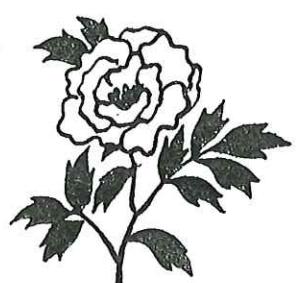
千代田岳精会に榮えあれ

金まで十教場が連日利用され、また各種の研修会が毎月積極的に開催されています。お、今日の発展に繋がります。

特に居住地に近い分室開設の提案は、賛同された教場で開設が続き、これこそ今後千代田の進む道だと信じています。

この年齢で、幾つかの教場で指導出来る健康は、詩吟を続いているお陰と感謝しております。喉の調子に小人數で、飯田先生の個別指導によることころ配りしながら、まだまだ詩吟と向き合つて行きたいと思つています。

矢のごとく過ぎ去つたこの時代は、時代、峨眉山月の歌」「易水送別等の難吟に挑戦して高音を競い合つた吟友が楽しく思ひ出されます。東陽町教場に続き、丸の内第二教場が開設の運びとなり、昼夜教場としました。教場は旧本館七階の広く莊重な講堂、新館十二階の五百人は入荘充実していたと満足しています。



「江雪」墨絵の世界

会 常任顧問 吉川 龍鐘

開設二十五周年吟道大会に際し入会 当時の思い出を述べさせて頂きます。確か昭和五十九年の暮れだつた

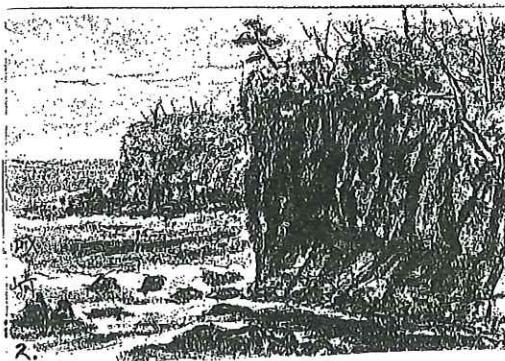
と思ひますが、当時の勤務先明生商

吟友も二百六十名突破と大世帯となりましたことは、入会当時を振り返りますと、夢の様で、唯々感慨に堪えません。思い起しますと、昭和六十年に丸の内教場開設直後に入会し、飯田教長の朗々とした美声と絶妙なご指導のもとで、夢中で吟に励んでまいりました。仕事を終えてから練習は一日の疲れも吹き飛び気分爽快、明日への活力の源となりました。(終了後の皆での懇親の楽しみも)

(終了後の皆での懇親の楽しみも)お陰で吟詠の魅力、奥深さに感動し、今日まで会との繋がりとなりましたことは、私の生涯が一層充実したものです。飯田最高顧問との出会いがあつたことは、私の生涯が一層充実したものです。二年後の大正六年に千代田教員は三十名程度で、その年十一月京浜地区教場合同の温習会(於川崎市全東芝労働組合会館)に早速、当教場から合吟に初デビュードラム(二十五名)の思い出。また翌六月十三年に全国吟道大会(この年は中部地区で開催され、名古屋公会堂で実施)へ大挙して参加、京浜地区教場合同の構成メンバーとして合吟に初参加しました。岩崎兩先生のご紹介で入会、今の丸の内第二教場に属しながら東陽町教場でも学ばせさせていただき、飯田先生はじめ磯田、清水教場を立った次第です。

会の為務会計で、本部連絡等の役割を仰せ付かり、会の運営に何役も手がけました。吟友の方々も隔てなくお迎えいたします。吟友の方々も隔てなくお迎えいただきます。今も感謝いたしている次第です。

携わりました。当時はまだ少人数の会であつたためですが、現在の整つた組織と意欲溢れる多くのスタッフから見ると昔日の觀があり誠に懐かしく思い出されます。今後の益々の発展に微力ながら尽くしたいと思います。



星野 久風(清水)

入会の頃を回想して
常任顧問 村上 恒風

私は十八年前、旧友林龍吾さんの紹介で入会、今の丸の内第二教場に属しながら東陽町教場でも学ばせさせていただきました。岩崎兩先生のご薰陶を賜りました。當時はまだ千代田も総人數五十名

でした。吟友の方々も隔てなくお迎えいたします。吟友の方々も隔てなくお迎えいただきます。今も感謝いたしている次第です。

上げた次第です。

この様な魅力的で人間味溢れる詩吟のサークルを、出身母体の清水でも作りたいと思い、十五年前、盟友の大槻鉢風さんと相談して、その絶大な力を出して頂き、清水教場を立

ました。吟友の方々も隔てなくお迎えいたします。吟友の方々も隔てなくお迎えいただきます。今も感謝いたしている次第です。

入会当初は、諸先達の鍛え抜いた決め込み、三ヶ月経つてやつと人前で吟ずることが出来たという態たらしくでした。しかし時と共に吟の魅力に惹かれて興趣が彌増し、丸の内に籍を置いたまま東陽町教場、日暮里の漢詩教室、我孫子カルチャーセンター等、各方面にお引き出しをいただき、吟キチと言われるほど吟とその周辺の世界にのめり込んでいた頃が懐かしく回想されます。

その間、諸先生から實に多くの事を学ぶことができ、今もその蓄積を大変役立たせて頂いています。またご多分にもれず緊張の続いた稽古の後の方々との”ノミニケーション”は格別の楽しみでした。吟縁の有難さをしみじみと感じています。

この様々な魅力的で人間味溢れる詩吟のサークルを、出身母体の清水でも作りたいと思い、十五年前、盟友の大槻鉢風さんと相談して、その絶大な力を出して頂き、清水教場を立

入会二十年を迎えて

副会長 菅原 龍琴

平成三年一月、磯田精信先生の熱心な誘いを受け、千代田教場に入会しました。当初二十年も永続します。創立二十五年を迎えることが出来たのは、ひとえに諸先生・先輩と会員の皆さんに支えで頂いたお陰と深く感謝申し上げます。当時の教場は会員も少なかつたのですが、男子も在籍しております。また、研修部門と協力して約百名となつた女子講習会を前、後期にスタッフと共に実施、指導しております。

会員の皆さんには、ひどに諸先生・先輩と会員の皆さんに支えで頂いたお陰と深く感謝申し上げます。当時の教場は会員も少なかつたのですが、男子も在籍しております。また、研修部門と協力して約百名となつた女子講習会を前、後期にスタッフと共に実施、指導しております。

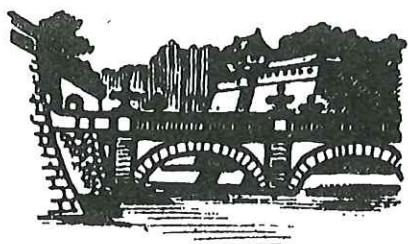
吟を習い始めた当初、習う漢詩も、流統の吟譜、節調も素晴らしいに感動したのですが、一人で吟ずると難しく、合吟だと乗せられて上手く詠えることも知りました。全国吟道大会で、初めて本部女子役員の独吟を聞き、鳥肌が立つ程自分が、いまだまだ遠い道程です。

男子が主流の会ですが、年々女子会員も増え、二十二年、会則が改定され発足以来の婦人部門は女子部となり、私は副会長兼婦人部長を拝命致しました。

吟道の思い出
丸の内第二 中村 伯風

早いもので千代田教場に入つてから今年で二十五年、記念大会が開催されることに、月日の経つのが早いと痛感しています。奥伝師範と八段の許証、四冊の詩得手帳など出してみました。飯田精鷹先生に、昼休みに旧本社七階講堂下食堂での一杯がいつも楽しみ

は平成十六年十一月でした。その時の吟題は、自分の好きな詩を選んであります。また、研修部門と協力して良いとのことなので「江雪」柳宗元を吟じたことを思いだしました。江雪 独鈞寒江雪 千山鳥飛絶 萬徑人蹤滅孤舟蓑笠翁 あつたこと大変良い思い出です。吟友に感謝。千代田岳精会は、素晴らしい吟道の会です。



□研修担当紹介

千代田岳精会は、八年前に詩歌、舞、一年前の自作自詠（俳句）と合わせて四研修が切磋琢磨しています。この研修は会の枠に捉われず、どなたでも自由に参加出来ます。新宿駅西口の明治安田生命新宿ビルが平日には毎日使用出来るという恵まれた環境を生かして、活発かつ充実した活動を続けて、四研修担当をご紹介します。

◇詩歌研修担当

リーダー 渋谷 辰風

私は、常日頃詩吟の研鑽をしておりますが、詩や作者についてもっと深く学び、詩心をよく表現できる吟じ方をしたいと言う思いから、仲間を募つて生まれました。平成十五年に発足、九年を経過しましたが、その間月一回の研修会には常に三十人前後の吟友が参加して、内外の漢詩と詩人を中心に幅広く学び、更に中国、日本、朝鮮の歴史を取り上げて、大いに成果を上げてきました。運営の特色は、講師が全て千代田の会員であることです。そして時間程勉強、質疑応答後に、題材の詩を声高らかに吟じて散会する

いう、まさに会員相互による勉強会であることです。

今年は、会員の意見希望に応じて原点に還り、李白・杜甫・王維の生涯と詩をテーマとしましたが、講師には従来のベテランに新人が加わり新しい観点からの解釈もあつて大きいです。盛り上がりがついています。

◇演奏研修担当

リーダー 萩 裕風

まだ支部昇格前の頃から磯田先生のご指導で、新人育成のためのコンククターレッスンが開かれていました。平成十四年「千代田岳精会演奏部」が発足し、従来の新人指導に加え年々増加する教場、会員に対応出来るよう全教場二名以上の伴奏者育成を目指としたコンククターレッスンが発足の運びとなりました。その成果発表の場として十二月三日開催の温習塔会に先輩有志も参加して、「姫百合の塔」唐岩泰堂作を発表しました。他の科目として恒例化し、今年も節目の創立二十五周年記念大会に「千代田城」大野恵造作で出場すべく、熱氣溢れる研

爾來、受講者数は延べ二百名余に及び、夫々が各教場や研修会・行事等で真摯な活動が展開されて、いる現況に、大いなる喜びを感じている次第です。ところで、伴奏機器の代名詞となつているコンククターレッスンは実は商品名で現在製造されていません。近年の受講者の殆どがトレーナーの所有者です。今年からコンククターレッスンの名称を外して、単に演奏研修としました。

◇剣詩舞研修担当

リーダー 松尾 宝泉



剣詩舞とは、吟詠に会わせて踊る伝統舞踊であり、吟詠と協調して詩文の詩心表現を実現するものです。剣と槍で踊る「剣舞」と扇で踊る「詩舞」があります。

剣詩舞研修は平成十九年四月に千代田岳精会の研修部門の一つとして発足し、今年は活動五年目です。演目は教場で習つている絶句や律詩、短歌のほか歌謡吟詠もあります。研修では金子千峰先生の指導のもと、紋付袴に足袋を履き、刀と扇を帶びて、凛々しき勇姿で踊ります。

付す。吟は会員のご協力を頂いて伴奏付き生吟です。現在部員は十一名で樂しい雰囲気のなか温習会等の出演に向け練習に励んでいます。健康新舞研修へのご参加をお待ちしています。

場所は明治安田生命新宿ビル地下一階第四会議室、日時は原則第三月曜日十四時から十六時です。

◇自作自詠（俳句）研修担当

リード一 橋本 隆泉

俳句に親しみ吟を楽しむ

詩吟人生の更なる充実とマンネリ打破を計り、俳句についての研修を平成二十年四月、二十余名の投句、参加を得て開始しました。

詩吟人生の更なる充実とマンネリ打破を計り、俳句についての研修を平成二十年四月、二十余名の投句、参加を得て開始しました。

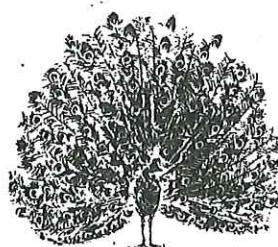
（5）（4）（3）（2）（1）基礎研修（即吟力の養成）の開催。
吟行句会（語等の勉強）。
講師を招き、勉強会。
等実施しております。漢詩との関

わりは大きく、江戸前期の俳人、松尾芭蕉の「夏草や兵どもの夢」の影響が濃く表わされています。他にもあるが省略します。

「跡」は、杜甫の「春望」の影響が濃く表われています。他にもあるが省略します。

俳句は五七五の十七文字に季語があるが、その方が直書き法として、徹底写生、「直視、直観」として、徹底写生、「直叙」が大事である。

吟力の向上を図りつつ、俳句のあら人生を楽しみましょう。



編集後記

以後、リーダー、スタッフ、ご参加の皆様のご協力により、次の通り参加を来感謝申し上げます。

（1）開催日時と会場 毎月第二火曜日 午後二時半 地下別館会議室。

（2）投句は、兼題（毎月担当を決め出題）一句と新聞の俳句欄から好きな一句、計二句。

（3）全員参加、発表で、季語等の勉強。

（4）即吟力の養成）の開催。

（5）講師を招き、勉強会。

等実施しております。漢詩との関

や風評被害はまことに残念な事です。五津波で壊滅した岩手の防風林の松を、京都で産米が汚染されたと誤解される。テロップを流した名古屋のテレビ番組で、何れも放射能汚染への国民の不安に関わった問題でした。

被災者への配慮から、自肅され中止となつた行事が続出。挑戦を決めた武道館合吟コンクール、全国吟道大会、全国吟詠コンクール等々。

その中で実施を決めた創立二十五周年記念吟道大会は、犠牲者のご冥福を祈り、被災者の苦難への思いを胸にしつかりと抱いて、肃々と進めて参ります。

今号は、特別号として「先輩よ、ありがとうございます」と「創立二十五周年記念吟道大会スローガン」に合わせ、功労先輩の方々に草創期の思い出をご寄稿頂きました。有難うございました。

二十五年史は、千代田の公式記録にとの思いで二十年史を土台に正確を期しました。

平成二十三年十月

創立二十五周年記念
広報委員

花太八田山濱口

仁風翠龍顯泉

千代田岳精会 25年の歩み

年月日	行 事	説 明
昭和 60 年 4 月	千代田教場開設	千代田区丸の内明治生命館内、企業内同好会として
昭和 61 年 6 月 21 日	第一回温習会	労働会館 1教場 会員数 30名
昭和 62 年 2 月 6 日 11 月 27 日	岳精流日本吟院に加入 京浜合同温習会初参加	京浜合同教場所属
昭和 63 年 7 月	全国吟道大会初参加	名古屋市公会堂
平成 2 年 7 月 22 日	全国吟道大会参加	川崎市市民文化会館 9名参加
平成 3 年	京浜合同 15 周年記念大会	22 名参加
平成 4 年 2 月	東陽町教場開設 2教場となる	教場長 磯田真山 会員 4名
平成 5 年 11 月	京浜合同吟道大会	独吟・合吟出吟 26 名参加
平成 6 年 3 月 1 日 8 月	支部昇格認許 支部昇格記念大会	2教場 会員 60名 宗家をお迎えする
平成 7 年 11 月	総本部男子 全国吟劍詩舞道大会優勝	男子 8 名出場
平成 8 年 8 月 1 日 10 月 1 日	6 教場 100 名体制構想を固め会昇格を目指す 丸の内第二教場開設 清水教場開設	教場長 岩崎泰山 教場長 村上恒泉 4 教場 会員 90名
平成 9 年 1 月 3 月 9 月 1 日	神田教場開設 ハザマ教場開設 岳精会昇格認許	教場長 林 吾山 教場長 鈴木重山 6 教場 会員 106名
平成 10 年 1 月 1 日	飯田会長指導本部員拝命	

平成 10 年 2 月 19 日 10 月 11 日 11 月 11 日	鍊水教場開設 会発足記念大会 東陽町 5 周年温習会	教場長 井手樹山 明生ビル 11F 124 名参加 東陽町ビル 7 教場 会員 122 名
平成 11 年 10 月 16 日 11 月 14 日	温習会 全国吟劍詩舞道大会	労働スクエア東京 男子チーム 50 名 出場 会員 133 名
平成 12 年 1 月 11 月 30 日	丸の内女子教場開設 温習会	教場長 菅原琴山 中野ゼロホール 8 教場 会員 137 名
平成 13 年 5 月 9 日 11 月 1 日 12 月 3 日	東陽町 10 周年温習会 草加分室開設(丸二) 温習会	中野ゼロホール 分室長 太田翠山 中野ゼロホール 142 名参加 8 教場 1 分室 145 名
平成 14 年 2 月 26 日 4 月 21 日 12 月 3 日	清水・神田・ハザマ合 同 5 周年記念温習会 全国吟道大会赤穂義士 外伝「俵星玄蕃」を披 露 温習会	湯島聖堂斯文会 講堂 川崎市民文化会館 林筑山主演 中野ゼロホール 会員数 151 名
平成 15 年 4 月 1 日 11 月 23 日 12 月 14 日	吟楽部門、詩歌・演奏 研修新設 秋の吟行会 温習会	鎌倉散策 深川江戸資料館 会員数 149 名
平成 16 年 1 月 1 日 4 月 1 日 11 月	磯田副会長指導本部員 拝命 躍進・啓発部門新設 新宿分室開設(神田)	分室長 橋本淳泉 8 教場 2 分室 152 名

平成 17 年 1 月	林神田教場長指導本部員拝命	
4 月	鎌ヶ谷分室開設 (東陽町)	分室長 萩 裕山
11 月 1 日	許証、総務、経理部門新設 新宿分室が教場昇格	教場長 橋本淳山 9 教場 2 分室 会員数 161 名
平成 18 年 1 月 1 日	磯田会長代行本部副幹事長に就任、岩崎副会長指導本部員拝命	
5 月	銀座分室開設(東陽町)	分室長 渋谷辰山
10 月 29 日	創立 20 周年記念大会	新宿明治安田生命ビル
11 月	全国吟剣詩舞道大会 男子チーム 55 名出場	22 位に初入賞 本部女子チーム優勝 9 教場 3 分室 178 名
平成 19 年 1 月 1 日	飯田精鷹会長勇退 鈴木龍成会長就任 剣詩舞研修新設	10 月会員 200 名目標提示
1 月 11 日	神田 10 周年温習会	
3 月 7 日	ハザマ 10 周年温習会	分室長 耳塚昇風
4 月	神楽坂分室開設 (東陽町)	
4 月 7 日	春の吟行会	靖国神社で合吟
5 月 1 日	新宿金曜分室開設 (新宿)	分室長 酒井帆山
6 月 1 日	歌唱研修新設	
6 月	日暮里分室開設(丸二)	分室長 本多弘山
9 月	用賀分室開設 (神田)	分室長 大竹霞山
10 月 6 日	温習会	南大塚ホール 190 名参加 9 教場 7 分室 200 名

平成 20 年 1 月 1 日	鈴木会長指導本部員 拝命	
	志茂分室開設(神田)	分室長 池田康山
	鎌ヶ谷分室教場昇格	教場長 荻 裕風
	代々木分室開設(丸一)	分室長 山口朱山
	千吟会発足	
	松戸分室開設(ハザマ)	分室長 二宮祥山
	調布分室開設(東陽町)	分室長 荒井さい子 養老渓谷 77 名参加
	秋の吟行会	南大塚ホール
	温習会	10 教場 10 分室
		会員数 213 名
平成 21 年 4 月 10 日	鎌倉分室開設 (丸二)	分室長 高橋辰山
	春の吟行会	明治神宮→東郷記念館 76 名
	新宿金曜分室新宿第二教場へ昇格	教場長 酒井帆風
	3 グループ毎温習会	11 教場 11 分室
平成 22 年 1 月	25 周年目標	会員 250 名
	自作自詠研修発足	自作俳句の吟詠
	中野分室開設(清水)	分室長 徳本順山
	逗葉分室開設 (清水)	分室長 大槻鉢風
	市川分室開設(鎌ヶ谷)	分室長 西山定泉
	桜ヶ丘分室開設(丸二)	分室長 廣田了風
	3 グループ温習会	11 教場 14 分室
		会員数 245 名
平成 23 年 3 月 11 日	熊谷分室開設(東陽町)	分室長 小林明山
	春の吟行会	城ヶ島 52 名参加
	創設 25 周年吟道大会	全電通労働会館
5 月 22 日		11 教場 15 分室
		会員数 264 名
10 月 16 日		